赤い羽根共同募金

十月一日～十二月三十一日

平成10年度共同募金目標額 258万9,000円に決定

十月一日から全国一斉に赤い羽根共同募金運動が始まりました。

赤い羽根共同募金運動は、みなさまのやさしい心に支えられて、今年で五十二回目を迎えました。今年の目標額は、赤い羽根共同募金の二〇三万九千円と歳末たすけあい募金五十五万円のあわせて二五八万九千円となりました。

後日、各地区区長さん、隣組長さんを通じて、みなさまに共同募金のご協力をお願いに伺いますので、よろしくお願いします。

共同募金会横越町分会

宝くじ助成金で地域おこし

～川根谷内地域公民館～

川根谷内地域公民館（館長 高橋惣衛）では、平成十年度宝くじ助成事業（一般コミュニティ助成事業）を受け、地域おこしの一環として車壇ややぐら、太鼓、うちわなどを購入しました。

事業費総額は約二七六万円（うち助成額二五〇万円）。

九月五日、六日の川根谷内の祭りには、たくさんの人々が参加し、さっそく車壇を引っ張ったり、うちわを扇いだり、また、やぐらのまわりでは大きな踊りの輪ができるなど、にぎやかな祭りになりました。

簡易裁判所「民事手続案内」

テレホンサービスのお知らせ

十月一日から七日は 全国道路標識週間

このたび、新潟簡易裁判所では、民事の各種手続を電話やファクシミリで提供するテレホンサービスを始めました。

「訴状の書き方」「調停の申立て方法」など、電話の音声ガイダンスにそって項目を選択するだけで、知りたい情報を取り出すことができます。

電話・FAX共通
二二二－三八五五
（二十四時間、年中無休）

道路標識は、ドライバーを目的地まで導く案内役です。標識週間では、道路標識がきちんとその役目を果たしているかどうかを点検し、改善を図ります。

よりわかりやすい道路標識とするために、みなさんのご意見やご要望をお聞かせ下さい。

◆北陸地方建設局標識BOX係
〒九五一－八五〇五 新潟市白山浦 FAX二六五－六一四八

耳よりな情報

～広域情報ネットワーク～

〈新 潟 市〉

新潟市民芸術文化会館オープン

新潟市民芸術文化会館には、コンサートホール、劇場、能楽堂があり、オープンを記念して、世界が誇る、日本が誇るアーティストが続々登場し、演奏会や演劇、能などが披露されます。チケット前売りを開始しています。ぜひご来場下さい。

▶開館日　10月22日（木）
▶場所　新潟市白山地区（県民会館、白山神社となり）
▶問い合わせ　新潟市民芸術文化会館 ☎224－5616

〈白 根 市〉

楽しもって秋まつり

▶日時　平成10年10月10日10時10分10秒スタート 翌11日もあります。
▶会場　白根市総合公園、地区会場
▶内容　凧揚げ大会、白根なべサービス、フリーマーケット、健康展、郷土芸能など、楽しいイベントがいっぱいです。
▶問い合わせ　楽しもってまつり実行委員会事務局 ☎373－2111

8月資源ごみ収集実績

空きびん	8.2 t
空き缶	5.7 t
古紙	24.2 t
合計	38.1 t

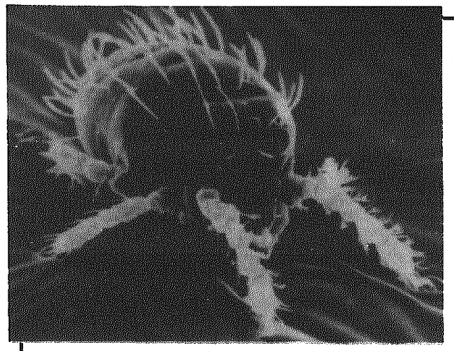
10月資源ごみ収集日

地区	収集日
横越・川根谷内	13日(火)
	27日(火)
その他の地区	15日(木)
	29日(木)

10月18日（日）は町内一斉空き缶回収日　地域ごとに実施されますのでご協力をお願いします。

ふる里物語　町史編さんだより㊽

恙虫と恙虫病



阿賀野川流域に多く生息する〝アカツツガムシ〟の走査電子顕微鏡写真（宮村定男著『恙虫病研究夜話』より転載）

横越中学校中庭の像の台座のプレートに「希望と感謝」とあるのを、みなさんはご存じでしょうか。揮毫は昭和三十八年に当時の新潟大学長伊藤辰治氏。彼は奇しくも恙虫病の研究者でありました。

平成十年五月二十六日の新潟日報に、横越町と小国町で二人の恙虫病の感染者が出たという記事が報じられました。今年に入って県内の感染者は合計十一人で、河川流域だけではなく、山間部にも感染の危険性が潜んでいます。

横越町には、沢海の七面様信仰に代表されるように、恙虫病に悩んできた長い長い歴史があります。かつては恙虫病のために、十一人の死亡者を出した年もあったと伝えられています。

横越町における恙虫病研究史は、大正八年（一九一九）の阿賀野川改修工事開始に伴い、内務省が恙虫病感染予防対策を、新潟医科大学の川村麟也博士に委嘱したことに始まります。

昭和九年（一九三四）には、小杉地内の中洲（通称角兵衛島）が実験用地として新潟医科大学へ無償貸与され、昭和二十年（一九四五）には、川村麟也博士および米軍フィリップ軍医大佐一行が恙虫病研究のために来村しています。その後まもなく、県衛生部により大規模な消毒作業も実施されました。

恙虫病は、恙虫（小ダニ属で六百種もある）自身に病因があるのではなく、恙虫体内に寄生する〝オリエンチア・ツツガムシ〟というリケッチア（通常の細菌より小さく、ウイルスより大きい微生物）が病原体です。恙虫は単なる媒介者にすぎません。ですから、有毒な恙虫は、ほんの数パーセントの雌に限られています。

卵から孵化した恙虫の幼虫は、温血動物の体液を吸います。普通はネズミや野鳥ですが、そこに人がいると犠牲になってしまいます。恙虫は動物の体液を吸いやすくするために、刺し口に凝血を防ぐ蛋白質のパイプを作りますが、人の場合、この時にリケッチアが体内に入り、恙虫病に感染してしまいます。

感染すると刺されたところが潰瘍となり、リンパ腺の腫れや高熱といった特有の症状から神経がやられて、昔は死に至りましたが、戦後は抗生物質の投与などにより、多くの犠牲者を出した古典的恙虫病の死亡率は、ゼロになりました。

恙虫は人の皮膚の軟らかい陰部を刺すケースが多いので、〝エロムシ〟の名を冠している地域もありますが、卑近な例で「川に向かって小便するな」という言葉は、恙虫病感染を回避する的確な指摘であり、過去の惨劇からにじみ出た言葉として一笑に付すわけにはいきません。

（自然担当　矢島正道）

古い電話帳を回収します

NTTでは、新しい電話帳「新潟ハローページ」を十月に企業や家庭にお届けします。その際、今までお使いの電話帳は紙資源として再利用するため回収しますので、配達員が新しい電話帳をお届けしたときには、今までお使いの電話帳をお渡し下さい。

また、NTTのお客さま窓口に電話帳回収ボックスを設置し、十一月末まで回収していますのでご協力下さい。

短歌（公募作品）

年寄りの暮らし色々我が家には孫等育てる時の楽しみ　加藤正喜

朝な朝な目ざむる時に渡り行く鴉の声は吾れ一人聞く　佐藤々泉

青き葉を渓谷に映して清さまし水はしぶけり岩間をながれる　中村チヨイ

この町に表具を教える先輩はお召列車の指導機関士　渡邊尚

荘厳の白き滝水背景に写る写真で滝丈知らさる　小田トキイ

谷川へ落ちるダム湖は飛沫あげ望む湖水は虹となりえぬ　中川マツノ

水切りを済ませば花の生き生きと桔梗の色冴えて美し　田辺タケノ

朝露を全身に受けキビを取る協同出荷のひと刻きびし　清田ミイ

この年も大きく咲けり芙蓉花の今朝は命を散らしておりぬ　藤田千代美

さばかれた海魚つまみに酒飲みつ明日思いつ老いも思いぬ　高橋一夫

10月は「リサイクル推進月間」です。